

自転車で公道を走る時は交通法規を守りましょう!



全日本シクロクロス男子エリート優勝の沢田



第85回全日本ジュニアロードレース選手権大会	2
2016全日本選手権 オムニウム/マスターズ	4
第22回全日本シクロクロス選手権大会	6
日本代表選手団	8
新年のご挨拶	9
2016 UCI室内自転車競技世界選手権大会	9
第22回日韓対抗学生自転車競技大会	10
男子エリート・ロードレースランキング	11
今後の大会予定	11
連盟の動き	11
競技大会結果	12
第1回チャレンジトラック	13
2016-17 UCIトラックワールドカップ第1戦	14
2016-17 UCIトラックワールドカップ第2戦	16
第47回全日本室内自転車競技選手権大会	19



この広報誌は、競輪の補助金を受けて作成しました。
<http://ringring-keirin.jp>

無限の夢へ、走りだそう。 RINGRING! プロジェクト

競輪の補助事業

地方自治体が開催する競輪の売上金の一部は、モノづくり、スポーツ、地域社会への貢献など、さまざまな分野の事業に役立てられています。
くわしくはウェブで RINGRING! (競輪)



第 85 回 全日本自転車競技選手権大会ロードレース (MJ,MU17+15,WJ+WU17) 2016 第 3 回益田チャレンジャーズステージ

ジュニア全日本選手権ロードレースは他のカテゴリーとは時期を分けて、11月6日に島根県益田市の1周14.2kmのアップダウンのある公道で行なわれた。

ジュニア女子 (42.6km)

アジアチャンピオンの下山が世界選手権の落車のケガの影響により不参加の中、スタートから積極的に動いた菅原朱音と、一緒に飛び出したU17の中富尚子の一騎打ちとなり後続に大きく差をつける。最終は終始余裕を持ってレースを進めていた菅原がゴールスプリントで先行してそのまま優勝した。2番の中富はU17のチャンピオンとなった。

ジュニア U17 (28.4km)

2周回で争われたU17ジュニア男子

は福田圭晃、日野泰静、林祐作ら力のある選手が前半から積極的に動くが、レース距離が短いため集団は崩れない。結局最後まで大きく集団は分かれることなく、向かい風の集団スプリントとなり、南大隅高校の塩島がキレのあるスプリントでU17のレースを制した。

ジュニア男子 (85.2km)

1周目の20名以上の選手が巻き込まれた落車の影響もあり、前半は大きな動きはなく進む。レース距離が短く、一つ一つの登りも長くないため、レースを厳しいものにしたい日野竜嘉、渡邊歩、浜田大雅、重満丈、織田聖らが積極的にレースを動かしていくが、このカテゴリーでも多くのスプリンターが集団に残った。ラスト2周の日野、渡邊を中心とした登りの攻撃

で先頭集団は15名ほどとなり、スプリンターの多くが第2グループに取り残される。決定的な場面にも見えたが、第2グループの沢田桂太郎の一人牽きにより集団は再び一つになる。最終周も織田、日野、渡邊、重満ら前半から動いた選手らの攻撃で、集団は長く伸びるが大きくは分断されない。ゴールスプリントの様相の中で、ゴール手前3kmほどから谷和也、花田聖らが単発で抜け出すが、松田祥位が追走して逃さない。ゴール1kmを切って松田が、少し集団から抜け出した状態から一気に踏むと差が開いた。強い向かい風の中を松田がゴールまで踏み抜き、スプリントに備えていた選手らを置き去りにしてそのまま逃げ切り優勝した。(JCF強化コーチ 柿木孝之)



女子の菅原(右)と中富



男子ジュニア最終周、逃げる5人



男子ジュニアのメイン集団



男子U17のフィニッシュ



女子のメイン集団



男子ジュニア ゴール直前にアタックする3人

【競技結果】

第85回全日本自転車競技選手権大会
ロードレース (MJ, MU17+15, WJ+WU17)
2016 第3回益田チャレンジアースステージ
(2016/11/6 島根・益田)

男子ジュニア (85.2 km)

- 1 松田 祥位 岐阜 岐阜第一高 2:18.16
- 2 曾我部厚誠 大阪 京都産業大 2:18.16
- 3 吉岡 衛 奈良 奈良北高校 2:18.16



- 4 重満 丈 沖縄 北中城高校 2:18.17
- 5 宇賀 隆貴 東京 フィッツ 2:18.17
- 6 松本 大志 香川 高松工芸高 2:18.17

男子U17 + 男子U15 (28.4km)

- 1 塩島嵩一朗 鹿児島 南大隅高校 43:53
- 2 福田 圭晃 神奈川 横浜高校 43:53
- 3 日野 泰静 愛媛 松山城南高校 43:54



- 4 日野 凌羽 愛媛 松山城南高校 43:54
- 5 山内 溪太 岐阜 可児高校 43:54
- 6 長松 空吾 大分 別府翔青高校 43:54
- 15 竹内 成 香川 ホンヤンス 43.55 U15:1位
- 21 藤田翔太郎 福島 ファンサイクル 43.56 U15:2位
- 22 津田 悠義 愛知 EQADS 43.56 U15:3位

女子ジュニア + 女子U17 (42.6m)

- 1 菅原 朱音 鳥取 倉吉総産高 1:22.59
- 2 中富 尚子 熊本 千原台高校 1:23:00 U17:1位
- 3 成海 綾香 鹿児島 南大隅高校 1:24.58 U17:2位



- 4 長石 悠里 鳥取 倉吉西高校 1:24.58
- 5 根岸 恵美 岡山 チーム岡山 1:24.58
- 6 石上 夢乃 神奈川 横浜創学館 1:27.10 U17:3位



オムニウム男子エリート優勝小林

11月19日・20日の2日間、静岡の伊豆ベロドロームにおいて、2016全日本選手権自転車競技大会のオムニウムとマスターズ大会が開催された。

オムニウムについては、UCIルールが変更されたばかりの大会ではあったがトラブルもなく進行し、男女とも昨年チャンピオンの小林泰正、梶原悠未がそれぞれ連覇を果たした。

またマスターズでは、栄光のチャンピオンシャツを目指し、多くの選手が健闘した。

2016 全日本選手権自転車競技大会 オムニウム／マスターズ

オムニウム女子エリート優勝梶原



【競技結果】

2016全日本選手権自転車競技大会 トラック/マスターズ
(2016/11/19-20 静岡・伊豆パドドーム)

<トラック>

男子リト

- 1 小林 泰正 群馬 日本体育大学 118p
- 2 松本 憲斗 熊本 鹿屋体育大学 113p
- 3 中村龍太郎 千葉 伊ノメ信濃山形 108p

女子リト

- 1 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 148p
- 2 鈴木 奈央 JPCA JPCU 静岡 117p
- 3 上野みなみ 鹿児島 CIEL BLEU 114p

<マスターズ>

男子 35-49 歳 スプリント

- 1 武田 秀明 長野 伊ノメ信濃山形
- 2 亀山 尊仁 神奈川 湘南愛輪会
- 3 武井 秀周 長野 伊ノメ信濃山形

男子 50 歳以上 スプリント

- 1 古本 清文 富山 北陸トロボウ
- 2 山本 哲也 静岡
- 3 安東 秀倫 岡山 チム岡山

男子 35-39 歳 1km タイムトライアル

- 1 杉江 茂樹 大阪 CWASP 1:10.698
- 2 嵩田 吉成 大阪 1:12.433
- 3 山田 高嗣 静岡 ミソイ 1:15.049

男子 40-49 歳 1km タイムトライアル

- 1 水澤 耕一 東京 Ravello 1:09.600
- 2 小原 洋未 兵庫 シバースト 1:10.526
- 3 佐野 陽三 富山 トロボウ 1:10.828

男子 50-59 歳 500m タイムトライアル

- 1 古本 清文 富山 北陸トロボウ 34.871
- 2 丸山 繁一 兵庫 キャットアイ 36.196
- 3 羽田野隆彦 東京 36.551

男子 60 歳以上 500m タイムトライアル

- 1 羽鳥 浩 神奈川 湘南愛輪会 39.723
- 2 井上 善広 広島 41.443

男子 35-39 歳 3km 個人ハーフシュート

- 1 嵩田 吉成 大阪 4:02.405

男子 40-49 歳 3km 個人ハーフシュート

- 1 小原 洋未 兵庫 シバースト 3:42.229
- 2 上澤 剛 福島 郡山サイクル 3:48.548
- 3 西村 均 島根 GainesR 3:55.481

男子 50-59 歳 2km 個人ハーフシュート

- 1 矢野 賢児 高知 マリゴールト 2:26.510
- 2 羽田野隆彦 東京 2:28.592
- 3 安東 秀倫 岡山 チム岡山 2:32.239

男子 60 歳以上 2km 個人ハーフシュート

- 1 高橋 秀樹 静岡 FIETS 2:44.256

男子チームスプリント

- 1 チムTKG 水澤・松島・古本 50.118
- 2 英雄3オウ 佐野・奥津・羽田野 51.644
- 3 湘南愛輪会 土屋・亀山・市川 52.091

女子スプリント

- 1 奥平 厚子 兵庫 TEAM ZERO
- 2 濱田 真子 東京 湘南愛輪会

女子 500m タイムトライアル

- 1 和地 恵美 神奈川 スパース-K 39.347
- 2 小沼美由紀 埼玉 Ready Go J 40.603
- 3 島袋 陽子 兵庫 エキップリオン 43.082

女子 2km 個人ハーフシュート

- 1 小沼美由紀 埼玉 ReadyGoJ 2:45.526
- 2 島袋 陽子 兵庫 エキップリオン 2:54.878

女子チームスプリント

- 1 Schlapp 埼京 小沼・濱田 41.434
- 2 ZERO FRONTIER 奥平・島袋 43.488



男子 60 歳以上 500mTT の羽鳥



男子 40-49 歳 3kmIP の小原



女子 500mTT の和地



女子 2kmIP の小沼



男子チームスプリントのTKG



男子 35-49 歳スプリント1位の武田(左)と亀山

第22回全日本シクロクロス選手権大会



男子エリートのスタート

2017年シクロクロス世界選手権代表候補選手選考会を兼ねる第22回全日本シクロクロス選手権大会が、12月11日に市制120周年を迎えた宇都宮市で開催された。

東北道宇都宮インターに程近い「道の駅うつのみや ろまんちっく村」内に特設された全長3.0kmのコースは、観戦エリアにほとんどぬかるんだ場所がなく、観戦ポイントによってはコースの大部分を見渡せる設定となっている。出店ブースエリアにはグッズや飲食物を販売するブースが並び、ろまんちっく村の施設も利用できるため、来場したシクロクロスファンには絶好の会場だ。

最初のレースは9:00スタートの**男子ジュニア**(40分)。快晴ではあるが早朝氷点下まで冷え込んで凍結した路面が、ところどころ溶け始めてぬかるんでいる難しいコンディション。ホールショットを奪ったのは梶(伊丹高)だったが、2つめのヘアピンでスリップして転倒。江越(横浜高)が先頭に立ち、森林ポイントを過ぎて後続に7秒の差をつける。だがほどなくして日

野(松山城南高)が追い付いて江越をかわすと、あとはリードを広げ2位の村上(松山工高)に38秒の差をつけて優勝した。

第2レースは10:10スタートの**男子U23**(50分)。ホールショットを奪った竹内(MIYATA - MERIDA)が、ひとつ目のヘアピンでぬかるみにタイヤを取られ2名を巻き込み転倒。それを上手くかわした藤田(SNEL)が先頭に立つ。しかし転倒に巻き込まれた横山(SHIMANO)がすぐに立て直して追いつくと、織田(弱虫ペダル)とともに藤田をかわして両者のマッチレースとなった。横山が前を走り織田が後を追う展開が続いたが、最終的に7秒の差をつけて横山が優勝した。

12:30スタートの**女子**(40分)。気温が上がり陽射しも手伝ってコースのぬかるみはかなり解消されたが、北に面したキャンパー(傾斜路)はいまだマッドなコンディション。前年度チャンピオンの坂口(パナソニック)がスタートから先頭に立ち、武田(Liv)とのマッチレースになる。だが2周終了時には坂口が武田との差を10秒に広

げ、途中差を詰められる場面もあったが、最後は危なげなくこの大会2連覇を飾った。

13:50スタートの**男子エリート**(60分)。この大会5連覇中の竹之内(Toyo)がホールショットを奪ったが、最初のヘアピンでアウトコースを選んだ竹之内に対し、インコースを取った小坂(宇都宮ブリッツェン)が先頭に並ぶ。フィニッシュラインで先頭は小坂、以下、竹之内、沢田(BRIDGESTONE)、武井(FORZA)、前田(弱虫ペダル)と続き、この5名が先頭集団を形成する。

1周目で竹之内が早くも遅れ先頭は4名。2周完了時には沢田が後続の小坂と前田を7秒引き離す。最後は沢田が2位の前田に34秒差をつけてフィニッシュ、エリート1年目にしてシクロチャンピオンに輝いた。

「(後続と)差がついたのは滑りやすいキャンパーを、レース中1回だけ上手く乗車してクリアできたとき。数秒でも差がついていれば絶対有利なコースだったので、先頭でミスなく走ることを考えていました(沢田)。」(村田 隆宣)



女子のトップ集団



男子ジュニアのトップ集団

男子 U23 の横山



男子ジュニアの日野



女子の坂口



男子エリートのトップ集団

男子エリートの沢田



BRIDGESTONE

あなたと、つぎの景色へ

ANCHOR

ブリヂストンサイクル株式会社

●専用カタログご希望の方は¥200切手を同封の上、郵送にてお申し込みください。

〒362-8520 埼玉県上尾市中妻3-1-1 ブリヂストンサイクル(株) アンカー販売部 販売課 TEL. 048-772-5334

www.anchor-bikes.com



男子エリートのフィニッシュ



女子のフィニッシュ



男子U23のフィニッシュ



男子ジュニアのフィニッシュ

【競技結果】

**第22回全日本シクロクロス選手権大会
(2016/12/11 栃木・宇都宮)**

男子U23 (24.23km)

- 1 沢田 時 滋賀 ANCHOR 1:02:22
- 2 前田 公平 東京 弱虫ハゲル +0:34
- 3 小坂 光 長野 ブリッペン +0:40



- 4 竹之内 悠 京都 Toyo Frame +1:42
- 5 武井 亨介 茨城 FORZA +2:18
- 6 丸山 厚 長野 BOMA/ROND+2:18

女子 (15.23km)

- 1 坂口 聖香 兵庫 パナソニックデイス45.43
- 2 武田 和佳 埼玉 Liv +0:38
- 3 與那嶺恵理 茨城 FORZA +2:22



- 4 今井 美穂 群馬 Cycleclub.jp +2:48
- 5 唐見実世子 茨城 弱虫ハゲル +3:25
- 6 宮内佐季子 静岡 La. sista +3:59

男子U23 (18.23km)

- 1 横山 航太 長野 SHIMANO 51.09
- 2 織田 聖 埼玉 弱虫ハゲル +0:07
- 3 日野 竜嘉 愛媛 ホンダス +4:49



- 4 加藤 健悟 埼玉 白桦レーシング +5:09
- 5 藤田 拓海 神奈川 SNEL +5:09
- 6 竹内 遼 神奈川 MIYATA +6:46

男子ジュニア (15.23km)

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城南高校 43.13
- 2 村上功太郎 愛媛 松山工業高校 +0:38
- 3 江越海玖也 神奈川 横浜高校 +1:22



- 4 積田 連 福島 GARNEAU +3:39
- 5 梶 鉄輝 兵庫 伊丹高校 +3:47
- 6 清水 大樹 神奈川 GARNEAU +4:49

2016-2017トラック中距離オーストラリア 日本代表選手団

大会日程 ①タスマニア：2016年12月26日～2017年1月8日

②タスマニア：2016年12月23日～30日

メルボルン：2017年1月1日～3日

派遣期間 ①2016年12月23日～2017年1月9日

②2016年12月23日～2017年1月4日

開催場所 オーストラリア・タスマニア、メルボルン

代表選手団

コーチ ①飯島 誠 (強化コーチ) ②柿木 孝之 (強化コーチ)

メカニック ①森 昭雄 (強化支援スタッフ) ②斉藤 健吾 (強化支援スタッフ)

マッサー ①奥隅 信幸 (強化支援スタッフ) ②中山 真臣 (強化支援スタッフ)

スタッフ ①村田 正洋 (科学スタッフ)

選手 ①一丸 尚伍 (大分・ブリヂストンアンカーサイクリングチーム)

近谷 涼 (富山・三和シャッター工業株式会社 / マトリックスパワータグ)

新村 穰 (茨城・CS Slinger)

小林 泰正 (群馬・日本体育大学)

荒井 佑太 (宮城・法政大学)

今村 駿介 (福岡・中央大学)

中村 妃智 (千葉・日本体育大学 / 日本写真判定)

鈴木 奈央 (JPCA・JPCU 静岡) ※1月4日帰国

②上野みなみ (鹿児島・Ciel Bleu KANOYA)

吉川 美穂 (和歌山・LIVE GARDEN BICI STELLE)

梶原 悠未 (埼玉・筑波大学)

古山 稀絵 (東京・日本体育大学)

橋本 優弥 (岐阜・鹿屋体育大学)

2016 サイクルボール W 杯ファイナル大会 日本代表選手団

大会名 2016 サイクルボール W 杯ファイナル大会

派遣期間 2016年11月8日～14日

開催場所 スイス・ウィンタートゥール

選手 村上 裕亮 (大阪・RSV 大阪)・岡嶋 紘次 (広島・RSV 大阪)

新年のご挨拶



(公財)日本自転車競技連盟
会長 橋本 聖子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素より、皆様には自転車競技の普及振興活動へのご支援、ご協力を賜り心よりお礼申し上げます。

本連盟は本年、公益財団法人として五年目を迎えることになり、二度目の役員改選の年となりました。より一層盤石な役員体制を築き、連盟の今後の発展に向かいたいと存じます。

また、今年のオリンピック・パラリンピック リオデジャネイロ大会におきましては、パラリンピックで2個の銀メダルを獲得するのみに留まり、非常に残念な結果となってしまいました。三年後におきましては、成績をより向上させることを目標に競技力向上に努めていく所存でございます。

さて、2020年オリンピック・パラリンピック 東京大会も、刻一刻と近づいております。弊連盟といたしましても、大会開催の成功に向け、あらゆる面において最大限努力をしていく所存でございます。どうか今後とも皆様方の倍旧のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年も皆さまにとりまして良き年でありますよう心から祈念いたしまして、新年のご挨拶といたします。

2016 UCI 室内自転車競技世界選手権大会

サイクルサッカーはBリーグ優勝!



11月27日から3日間、サイクルサッカーは現地のクラブチームを渡り歩いて調整を、サイクルフィギュアはドイツのジュニア選手や、芝山が所属するTSG Sonnenbergのコーチと共に練習を重ね、30日にはシュトゥットガルトまで列車移動。

さて大会結果はサイクルサッカーがBリーグ優勝。今季はサイクルサッカーのW杯が直前の11月にスイスで行われ、代表の村上裕亮・岡嶋紘次(RSV大阪)は、W杯遠征時にも現

地のクラブチームで練習するなど準備を重ねてきた。他を大きく引き離す点差をつけての全勝優勝は、事前努力の賜物である。実に7年ぶりのグループA/B入替戦に進出したが、ベルギーを相手に2-5で敗戦、昇格は叶わず。序盤の失点が尾を引きリードを詰められなかったのだが、選手本人も、観戦した者も、勝てない相手ではないという手応えを感じた。

サイクルフィギュアは昨年同様のメンバーで、シングル種目に男女合わせ

て4名が出場した。大会自己ベストを更新したのは出場8回目を数える佐藤風沙(京都産業大学)。難度の高い技を取り入れた演技で77.04ポイントを獲得した。自己ベスト更新には至らなかったものの、順位で上回ったのは16歳の近藤菜月(滋賀BLA)。中川凱公(滋賀BLA)とともに高校生の二人には、より高いステージへと飛躍してもらいたい。(選手団)

【競技結果】

2016 UCI 室内自転車競技世界選手権大会 (2016/12/2-4 ドイツ・シュトゥットガルト)

サイクルサッカー

- 1 RC HÖCHST 1 AUT
- 2 RS ALTDORF 1 SUI
- 3 RMC STEIN 1 GER
- 7 RSV大阪 村上裕亮・岡嶋紘次

サイクルフィギュア 男子シングル

- | | | | |
|----|---------------------|----------------|--------|
| 1 | KOHL Lukas | GER | 199.43 |
| 2 | NIEDERMEIER Michael | GER | 192.32 |
| 3 | MARTENS Yannick | SUI | 186.51 |
| 19 | 芝山 耕輔 | TSG Sonnenberg | 76.65 |
| 20 | 中川 凱公 | ブルーレイクエンジェル | 75.21 |

サイクルフィギュア 女子シングル

- | | | | |
|----|-------------------|-------------|--------|
| 1 | HATTEMER Lisa | GER | 178.33 |
| 2 | BRAND Viola | GER | 173.75 |
| 3 | FRÝBORTOVÁ Nicole | SVK | 166.59 |
| 16 | 近藤 菜月 | ブルーレイクエンジェル | 81.30 |
| 17 | 佐藤 風沙 | 京都産業大学 | 77.04 |

2016年世界室内自転車競技選手権大会 日本代表選手団

大会名 2016年世界室内自転車競技選手権大会
大会日程 2016年12月2日~4日
派遣日程 2016年11月26日~12月7日
開催場所 ドイツ・シュトゥットガルト
代表選手団

リーダー 井上 徹 (日本室内自転車競技連盟理事)
コーチ 佐藤 康彦 (日本室内自転車競技連盟事務局長)
Koch 美穂子 (日本室内自転車競技連盟強化コーチ)
Petra MurkaPetra (日本室内自転車競技連盟強化コーチ)
メカニック 森本 晋也 (日本室内自転車競技連盟スタッフ)
マッサージ 阪本 博美 (日本室内自転車競技連盟事務局)

選手
サイクルサッカー 村上 裕亮 (大阪・RSV Osaka)・岡嶋 紘次 (広島・RSV Osaka)
大野 和俊 (神奈川・舞馬)・安井 英己 (東京・舞馬)
サイクルフィギュア 中川 凱公 (滋賀・滋賀 C.F.C ブルーレイクエンジェル)
芝山 耕輔 (ドイツ滞在 TSG Sonnenberg)
近藤 菜月 (滋賀・滋賀 C.F.C ブルーレイクエンジェル)
佐藤 風沙 (京都・京都産業大学)

第22回日韓対抗学生自転車競技大会



第22回日韓対抗学生自転車競技大会が、11月5日、6日にヤマダグリーンロード前橋にて開催された。この大会は当初、親善大会であったが、第8回大会から国家対抗戦になったとのこと。諸般の事情により今年の大会で最後となるが、来年からは新たに、学連・高体連とも独自でこの大会に代わる競技会を模索している。

さて、本年も両国から男子大学生5名、男子高校生5名、女子学生5名の選手が選抜され参加した。

〈大会1日目〉

12時30分からスプリント予選、競技は男子大学生、男子高校生、女子学生という順に進められた。大学生の部は坂井（日本大）、橋本（中央大）、韓国2名の計4名でおこなわれた。予選で坂井が2位、橋本が3位となり、日本人同士のみ1/2決勝で勝者の坂井が決勝進出。高校の部では伊藤（神戸弘陵）が2位、梶原（祐誠）が3位となり、1/2決勝の結果梶原が決勝進出。女子の部は清水（八戸学院）が2位、松本（昭和一）が4位となり、1/2決勝の結果で清水が決勝進出となった。

続いて個人追抜が実施された。大学の部で渡邊（朝日大）が1位、荒井（法政大）が2位。高校の部で村田（氷見）が2位。女子の部で中井（鹿屋体）が1位、細谷（浦和工）が2位となり計5つのメダルを獲得し、圧勝した。

タイムトライアルでは、大学生の部で橋本が2位、坂井が3位。高校生の部で治田（吉田）が2位。女子の部で細谷が2位となった。この種目は韓国勢に3クラスとも優勝をさらわれた。

〈大会2日目〉

8時45分からスプリント順位決定戦が行われた。大学の部で坂井が1位、橋本が3位。高校の部で梶原が2位。女子の部で清水が2位となった。

チームスプリント高校の部は治田、伊藤、梶原の短距離ベストメンバーで臨んだが、韓国に大差で敗れた。また女子の部は松本、細谷で臨み、未公認ながら48秒

531の日本ジュニア記録を出したが、韓国に惜しくも敗れた。

チームパーシュートは橋本、渡邊、青野（法政大）、荒井のベストメンバーで臨み、韓国を追抜き4分19秒076の好タイムで金メダルを獲得した。

ケイリンは最終周まで韓国勢が主導権を取っていたが、ゴール直前で坂井が先行する韓国2名を差し、金メダルを獲得した。

女子スクラッチは参加者全員で実施された。日本勢が再三にわたり激しい逃げを試みるがなかなか決まらず、最終スプリントで韓国が先着。松本が2位、岡本（日体大）が3位となった。

ポイントレースは男子全員（20名）で実施された。完走者8名とサバイバルレースとなったが、長距離の強い日本勢の頑張りが見え、結果は荒井が1位、青野が2位、中川（浦和工）が4位、渡邊が5位、村田が7位、伊藤が8位となり日本が圧勝した。

国家対抗総合成績は最終のポイントレースの結果により、日本が81対72で勝利を収めた。また、最優秀選手には坂井が選ばれた。総合的に男子大学生の活躍が光った大会であった。（日本選手団団長 井上正継）

〔競技結果〕

第22回日韓対抗学生自転車競技大会 (2016/11/5-6 群馬・ヤマダグリーンロード前橋)

男子大学部スプリント

- 1 坂井 洋 JPN 日本大学
- 2 Kim JunCheol KOR 京雲大
- 3 橋本 壮史 JPN 中央大

男子大学部 1km タイムトライアル

- 1 Kim JunCheol KOR 京雲大 1:04.693
- 2 橋本 壮史 JPN 中央大 1:04.742
- 3 坂井 洋 JPN 日本大 1:06.510

男子大学部 4km 個人パーシュート

- 1 渡邊翔太郎 JPN 朝日大 4:43.427
- 2 荒井 佑太 JPN 法政大 4:43.500
- 3 Kim DaeHun KOR 京雲大 4:47.957

男子大学部チームパーシュート

- 1 日本 橋本・渡邊・青野・荒井 4:19.076
- 2 韓国 KOR 4:44.059

男子高等部スプリント

- 1 Na JungGyu KOR 仁川體育高
- 2 梶原 海斗 JPN 祐誠高校
- 3 Ku BonKang KOR 東大田高等學校
- 4 伊藤 歩登 JPN 神戸弘陵高校

男子高等部 1km タイムトライアル

- 1 Na JungGyu KOR 仁川體育高 1:04.095
- 2 治田 知也 JPN 吉田高校 1:05.424
- 3 Won JuNo KOR 金海建工 1:05.906
- 4 伊藤 歩登 JPN 神戸弘陵 1:07.363

男子高等部 3km 個人パーシュート

- 1 We SeokHyeon KOR 加平高等 3:31.253
- 2 村田 祐樹 JPN 氷見高校 3:31.670
- 3 Won JuNo KOR 金海建工 3:36.673
- 4 中川 涼 JPN 浦和工高 3:42.313

男子高等部チームスプリント

- 1 韓国 KOR 1:01.898
- 2 日本 治田・梶原・伊藤 1:04.068

男子大学+高等ケイリン

- 1 坂井 洋 JPN 日本大
- 2 Kim HanWool KOR 韓國體育大
- 3 Kim DaeHun KOR 京雲大
- 4 治田 知也 JPN 吉田高
- 5 青野 将大 JPN 法政大

男子大学+高等個人タイムス (20km)

- 1 荒井 佑太 JPN 法政大 28p
- 2 青野 将大 JPN 法政大 19p
- 3 We SeokHyeon KOR 加平高等學校 14p
- 4 中川 涼 JPN 浦和工業高 12p
- 5 渡邊翔太郎 JPN 朝日大 11p
- 7 村田 祐樹 JPN 氷見高 5p
- 8 伊藤 歩登 JPN 神戸弘陵高 3p
- 坂井 洋 JPN 日本大 DNF
- 橋本 壮史 JPN 中央大 DNF
- 治田 知也 JPN 吉田高 DNF
- 梶原 海斗 JPN 祐誠高 DNF

女子 500m タイムトライアル

- 1 Kim Soohyun KOR 昌原慶一女 35.657
- 2 細谷 夢菜 JPN 浦和工業高 37.479
- 3 Ha JiEun KOR 仁川體育高 37.925
- 4 岡本 二菜 JPN 日本体育大 37.942

女子スプリント

- 1 Kwon SeRim KOR 光州體育高
- 2 清水 知美 JPN 八戸学院大
- 3 Kang JuyEon KOR 進永高等學校
- 4 松本 詩乃 JPN 昭和第一学園高

女子 2km 個人パーシュート

- 1 中井 彩子 JPN 鹿屋体大 2:35.604
- 2 細谷 夢菜 JPN 浦和工高 2:36.209
- 3 Song MinJi KOR 慶北體育高 2:40.745

女子スクラッチ (8km)

- 1 Song MinJi KOR 慶北體育高
- 2 松本 詩乃 JPN 昭和第一学園高
- 3 岡本 二菜 JPN 日本体育大
- 5 細谷 夢菜 JPN 浦和工業高
- 8 中井 彩子 JPN 鹿屋体育大
- 清水 知美 JPN 八戸学院大 DNF

チームスプリント

- 1 韓国 KOR 47.050
- 2 日本 細谷・松本 48.531

対抗成績

- 1 日本 81p
- 2 韓国 72p

男子エリート・ロードレースランキング

2016/11/30

順位	名前	所属	合計	7/7選	7/7選	TOJ	TOJ	TOJ	TOJ	TOJ	熊野	熊野	熊野	全日本	全日本	北海道	北海道	北海道	北海道	全日本	世界選	Japan	7-11
				TT	ロ-ト	総合	1 St	2 St	7 St	8 St	総合	1 St	3 St	TT	ロ-ト	総合	2 St	3 St	4 St	表裏団	ロ-ト	Cup	沖繩
				2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016	2016
				1/21	1/24	5/29-6/5	5/29	5/30	6/4	6/5	6/16-19	6/17	6/19	6/24	6/26	9/1-3	9/1	9/2	9/3	10/9	10/16	10/23	11/13
1	増田 成幸	栃木	168p	7		20	3							24	25	40	8	1				5	40
2	新城 幸也	JPCA	149p		70	5			14												20	40	
3	西園 良太	鹿児島	99p			3							30	55					1			5	5
4	初山 翔	神奈川	78p			3								70								5	
5	別府 史之	JPCA	43p		40																	3	
6	木村 圭佑	滋賀	41p									1		40									
7	石橋 学	青森	33p										3	30									
8	内間 康平	沖縄	31p						3	3													25
9	中根 英登	愛知	26p													20		1				5	
10	佐野 淳哉	静岡	25p										25										
11	鈴木 謙	栃木	24p										15			3	1					5	
12	鈴木 龍	宮城	21p								1			20									
13	伊藤 雅和	愛知	18p			3					15												
14	雨澤 毅明	栃木	16p										1									5	10
15	湊 諒	青森	15p																				15
16	野中 竜馬	広島	15p											15									
17	阿部 嵩之	栃木	10p											10									
17	吉岡 直哉	京都	10p													10							
17	平井 栄一	神奈川	10p												10								
20	畑中 勇介	東京	8p																			5	3
21	大久保 陣	鹿児島	7p									7											
22	入部 正太郎	奈良	6p							3													3
23	椿 大志	東京	5p										5										
23	土井 雪広	山形	5p											5									
25	石上 優大	神奈川	4p										1									3	
26	吉田 隼人	奈良	3p																				3
26	窪木 一茂	和歌山	3p					3															
26	山下 貴宏	兵庫	3p											3									
26	早川 朋宏	愛知	3p			3																	
26	堀 孝明	栃木	3p			3																	
31	橋本 英也	岐阜	1p										1										
31	中村 龍太郎	千葉	1p										1										
31	武井 亨介	茨城	1p										1										

今後の大会予定

期 日	大会 名	種 目	場 所
1月28日～29日	UCI世界選手権大会-シクロクロス	CX	ルクセンブルグ/ベルヴォー
2月6日～10日	第37回アジア自転車競技選手権大会	TR	インド/ニューデリ
2月6日～10日	第6回アジア・パラサイクリング選手権大会	PARA	インド/ニューデリ
2月17日～19日	2016-17 UCIトラックワールドカップ第3戦	TR	コロンビア/カリ
2月25日～26日	2016-17 UCIトラックワールドカップ第4戦	TR	アメリカ/ロサンゼルス
2月27日～2日	第37回アジア自転車競技選手権大会	RR	バーレーン
2月27日～2日	第6回アジア・パラサイクリング選手権大会	PARA	バーレーン
3月12日	第11回明治神宮外苑大学クリテリウム	RR	東京/神宮外苑
3月26日～29日	第40回全国高等学校選抜自転車競技大会	RR/TR	熊本県/山鹿市、福岡県/久留米市
3月31日～2日	ツール・ド・とちぎ	RR	栃木県
4月8日～9日	菖蒲谷クロスカントリー XCO CJ2	MTB	兵庫県/たつの市
4月9日	第42回チャレンジサイクルロードレース大会	RR	静岡県/日本サイクルスポーツセンター
4月12日～16日	UCI世界選手権大会-トラック	TR	ホンコンチャイナ
4月22日～23日	Coupe du Japon 八幡浜国際クロスカントリー UCI-C1	MTB	愛媛県・八幡浜市
4月29日～30日	全日本選手権自転車競技大会-トライアル	TRIAL	長野県/佐久市/ミレニアムパーク
5月4日～7日	Coupe du Japon びわこ高島STAGE XCO/DHI	MTB	滋賀県/高島市
5月13日～14日	全日本選手権自転車競技大会-トラック	TR	宮城県/大和町
5月13日～14日	全日本選手権自転車競技大会-パラサイクリング・トラック	PARA	宮城県/大和町
5月13日～14日	アジア・マウンテンバイク選手権大会	MTB	中国/ジュエンチョン

連盟の動き (10月下旬～12月中旬)

10月22日	平成28年度第4回競技運営委員会	於：栃木・宇都宮 ニューイタヤ会議室
11月2日	平成28年度第4回広報部会	於：東京・白金台いきいきプラザ 会議室
5日	平成28年度第5回競技運営委員会	於：静岡・伊豆ペロドローム 会議室
10日	第1回アスリートパスウェイ支援事業作業部会	於：東京・自転車総合ビル 602 会議室
16日	トラック短距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～18日)
20日	トラック中距離強化合宿	於：静岡・伊豆ペロドローム (～23日)
20日	ロード強化指定選手測定合宿	於：国立スポーツ科学センター JISS (～22日)
11月23日	日本体育協会公認コーチ養成専門科目講習会	於：静岡・日本サイクルスポーツセンター (～27日)
24日	ジュニアトラック・ロード合宿	於：静岡・日本サイクルスポーツセンター (～28日)
30日	第2回ロード競技部会	於：東京・自転車総合ビル 602 会議室
12月12日	第1回アンチ・ドーピング委員会	於：東京・自転車総合ビル 602 会議室
11日	トラック短距離強化合宿	於：JISS (～13日)
14日	トラック中距離強化合宿	於：JISS、静岡・伊豆ペロドローム (～22日)
15日	ジュニアロード合宿	於：沖縄・宮古島 (～19日)

競技大会結果

大会名、チーム名等については略して記載

Milton International Challenge (UCI-Class1) (2016/9/29-10/1 カナダ・ミルトン)

4km 個人パノシユト

- 1 近谷 涼 富山 三和シヤッター 4:32.860
- 2 GEE Derek CAN 4:36.735
- 3 SIMPSON Bayley CAN 4:34.432
- 10 一丸 尚伍 大分 BS アンカー 4:42.953

スクラッチ (15km)

- 1 KOVALCIK Zachary USA
- 2 BROWN Andy GBR
- 3 DAVIES Dylan CAN
- 5 近谷 涼 富山 三和シヤッター
- 9 一丸 尚伍 大分 BS アンカー

ポイントレース (30km)

- 1 LAMOUREUX Jay CAN 45p
- 2 近谷 涼 富山 三和シヤッター 34p
- 3 KOVALCIK Zachary USA 32p
- 一丸 尚伍 大分 BS アンカー DNF

MTB CJ-2 京都ゆづね STAGE (2016/10/29-30 京都・和束)

男子エリート (17.6km)

- 1 大淵 宏紀 大阪 Decoja 1:06:06.89
- 2 山田 将輝 長野 BH SR 1:07:02.03
- 3 小野 良太 兵庫 Sonic-R. 1:07:04.55

男子ジュニア (13.2km)

- 1 木下 雄介 大阪 ガチャピン 1:00:40.02

男子U-18 (13.2km)

- 1 神永 真一 大阪 ProRide 48:43.54
- 2 久保 一真 滋賀 ProRide 55:55.61
- 3 松田 陸 福岡 Matsuya 1:06:00.27

男子マスターズ (13.2km)

- 1 宮城 義一 京都 La.sista 58:06.30
- 2 牧野 元 東京 ARI 1:00:42.94
- 3 景山 昭宏 大阪 村上建具 1:01:07.99

女子U-18 (13.2km)

- 1 川口うらら 兵庫 Sonic-R. 57:54.42

第12回全国シニア自転車競技大会 (2016/10/30 三重・四日市)

A-J 男子ジュニア (99.0km)

- 1 亀谷 昌慈 岐阜 岐阜一 2:30:29.831
- 2 松田 祥位 岐阜 岐阜一 2:30:31.199
- 3 依田 翔大 山梨 甲府工 2:30:31.460
- 4 谷 和也 大阪 堺高 2:30:31.771
- 5 松本 大志 香川 高松工 2:30:41.707
- 6 濱田 大雅 大阪 藤井寺 2:30:41.920

A-Y 男子U17 (54.0km)

- 1 日野 泰静 愛媛 松山城 1:21:06.347
- 2 小野寺 慶 栃木 真岡工 1:21:07.137
- 3 塩崎 隼秀 愛媛 松山城 1:22:40.854
- 4 高木 英行 京都 高槻高 1:22:41.260
- 5 犬塚 貴之 愛媛 松山城 1:22:41.609
- 6 日野 凌羽 愛媛 松山城 1:22:42.121

A-F 女子ジュニア+ U17 (36.0km)

- 1 長石 悠里 鳥取 倉吉西 1:01:58.802

- 2 石上 夢乃 神奈川 横浜創 1:01:59.716
- 3 成海 綾香 鹿児島 南大隅 1:02:13.807
- 4 酒井 美有 愛知 中京高 1:02:14.151
- 5 平尾 愛菜 岐阜 岐阜一 1:02:44.037
- 6 片岡 十萌 三重 暁高 1:03:02.916

B-1 小学校1・2年生男子 (5.0km)

- 1 井上 悠喜 福岡 足原小 10:40.009
- 2 柚木 秀元 三重 泊山小 10:42.630
- 3 武西 憲進 愛媛 高浜小 10:45.708

B-2 小学校1・2年生女子 (2.6km)

- 1 福山 颯希 滋賀 瀬田東小 5:50.941
- 2 浅野 真央 栃木 今泉小 6:25.993
- 3 瀬戸山萌花 三重 一身田小 6:31.559

B-3 小学校3・4年生男子 (9.2km)

- 1 木綿 峻介 北海道 帯広啓西 17:01.374
- 2 松井 颯良 三重 中部西小 17:02.377
- 3 秋元 碧 栃木 泉が丘小 17:03.060

B-4 小学校3・4年生女子 (9.2km)

- 1 松崎 光優 新潟 新井小 18:40.518
- 2 瀬戸山萌音 三重 一身田小 21:47.151
- 3 西原 夕華 大阪 島本第一 22:24.613

B-5 小学校5・6年生男子 (18.2km)

- 1 篠島 瑠樹 福井 富田小 31:02.108
- 2 浅野 涼太 栃木 今泉小 31:02.217
- 3 梅澤 幹太 愛媛 道後小 31:02.284

B-6 小学校5・6年生女子 (9.2km)

- 1 石上 琴乃 神奈川 釜利谷小 16:34.321
- 2 竹中 希春 京都 桃山小 16:35.763
- 3 平子 結菜 三重 内部東小 16:41.713

B-7 中学生男子 (36.0km)

- 1 寺田 吉騎 静岡 周南中 57:36.199
- 2 津田 悠義 愛知 守山中 57:36.626
- 3 竹中 勇登 広島 落合中 57:37.776

B-8 中学生女子 (18.0km)

- 1 渡部 春雅 神奈川 はるひ野 31:34.573
- 2 大蔵こころ 長野 赤穂中 34:11.712
- 3 奥居あかり 東京 港南中 35:46.809

B-9 高校生男子 (36.0km)

- 1 河野史瑛呂 愛知 衣台高 57:57.778
- 2 山田 大司 愛知 第一高 57:58.325
- 3 加藤 功也 三重 津田学 1:00:50.402

B-10 高校生女子 (36.0km)

- 1 筒井二千夏 愛知 春日井商 37:30.859
- 2 三谷 咲月 三重 鈴鹿工専 40:09.709
- 3 鈴木ほのか 愛知 名城大付 45:02.718

C-1 小学校1・2年生男子 (2.6km)

- 1 荒木 碧翔 石川 花園小 7:11.490
- 2 櫻井 珀人 愛知 瀬部小 7:13.158
- 3 足達 青空 滋賀 祇王小 7:18.253

C-2 小学校1・2年生女子 (2.6km)

- 1 松井 暖々 京都 橋本小 8:08.438
- 2 大河原優花 三重 旭が丘小 8:10.119
- 3 下里 和花 三重 西が丘小 8:34.720

C-3 小学校3・4年生男子 (2.6km)

- 1 福島 愛都 愛知 双峰小 5:56.115
- 2 落合 携真 三重 川島小 6:03.593
- 3 稲玉 倅太 三重 川島小 6:50.995

C-4 小学校3・4年生女子 (2.6km)

- 1 鎌田 美羽 三重 水沢小 7:01.945
- 2 堤 南帆 三重 水沢小 8:38.352
- 3 清水 千尋 三重 水沢小 8:57.330

C-5 小学校5・6年生男子 (2.6km)

- 1 大蔵 悟生 長野 赤穂南小 5:03.277
- 2 酒井 寛大 三重 朝日小 5:04.185
- 3 鎌田 涼雅 三重 水沢小 5:57.224

C-6 小学校5・6年生女子 (2.6km)

- 1 広野 志織 三重 浜田小 6:46.802
- 2 三宅瑠美奈 三重 斎宮小 6:51.992
- 3 ナダトモエ 三重 高野尾小 8:14.188

M-1 未就学児3歳以上 (0.3km)

42名出走 タイム計測のみ順位つけず。

TOHOKU CX Project2016

さがえ Round UCI-C2 (2016/10/30 山形・寒河江)

男子エリート (27.0km)

- 1 小坂 光 BLITZEN 1:01:16
- 2 重田 兼吾 Team CUORE 1:01:19
- 3 山田 大介 PAXPROJECT 1:01:26
- 4 小坂 正則 Suwako Racing 1:01:35
- 5 斎藤 朋寛 RIDELIFE GIANT 1:01:36
- 6 織田 聖 Yowamushipedal 1:01:38

女子 (18.0km)

- 1 與那嶺恵理 eriy.jp 46:00
- 2 唐見実世子 Yowamushipedal 46:48
- 3 武田 和佳 Liv 47:31
- 4 今井 美穂 CycleClub.jp 48:59
- 5 須藤むつみ ReadyGoJAPAN 50:25
- 6 福本 千佳 Toyo Frame 50:48

CdJ クロスカントリー in 深坂自然の森 XCO (2016/11/12-13 山口・下関)

男子エリート (28.14km)

- 1 沢田 時 滋賀 Anchor 1:34:47.82
- 2 平林 安里 長野 Specialized 1:35:04.95
- 3 恩田 祐一 新潟 BH SR 1:38:47.41

男子ジュニア (16.08km)

- 1 上野 蓮 福岡 Lion 58:42.70
- 2 黒瀬 文也 北海道 EAM BG8 59:55.02
- 3 KIM Jaehue KOR Changwon 1:00:08.82

男子U-18 (12.06km)

- 1 神永 真一 大阪 ProRide 42:19.63
- 2 村上功太郎 愛媛 こけむしろ 42:39.55
- 3 山口 創平 滋賀 ProRide 44:30.03

男子マスターズ (20.10km)

- 1 浅井 秀樹 埼玉 USM 1:20:57.50
- 2 酒居 良和 広島 マウンテン☆ 1:21:38.23
- 3 塩見 学 東京 B・B・Q 1:23:56.63

女子エリート (20.10km)

- 1 末政 実緒 兵庫 SRAM 1:26:30.91
- 2 小林可奈子 長野 安曇野 1:34:12.29
- 3 橋口 陽子 神奈川 轍屋 1:37:34.96

女子ジュニア (12.06km)

- 1 佐藤 寿美 北海道 MIYATA 55:55.75
- 2 山田 夕貴 北海道 BG8 59:54.99

ツール・ド・おきなわ 2016

(2016/11/13 沖縄・北部)

男子チャリトンレース (210km)

- 1 増田 成幸 宇都宮ブリッツェン 5:07.21
- 2 Jai Crowford キャンサイクリングチーム 5:07.55
- 3 内間 康平 プリヂェストアンカー 5:08.02
- 4 Prades Benjamin チーム右京 5:11.07

- 5 湊 諒 シムレーシング 5:11.07
6 雨澤 毅明 宇都宮ブリック 5:11.07

国際女子 (100km)

- 1 HUANG Ting Ying TPE 3:14:40
2 Ellen van Dijk Baby-Dump 3:14:40
3 金子 広美 三重 ケー信濃山形 3:14:41
4 牧瀬 翼 大阪 ASAHI 3:15:10
5 大堀 博美 神奈川 yokosuka 3:15:11
6 榎木 祥子 東京 ニールライト 3:17:58

国際ジュニア男子 (140km)

- 1 Teun Mouris Baby-Dump 3:58:41
2 重満 丈 沖縄 北中城高校 3:58:41
3 Thanakhan CHAIYASOMBATTHA 3:59:24
4 TSOU Meng Che TPE 4:07:34
5 平安山良希 沖縄 北中城高校 4:07:35
6 成海 大聖 沖縄 普天間高校 4:07:43

**関西シクロクロス・マキラウド (UCI-Class2)
(2016/11/20 滋賀・高島)**

男子エリート (20.2km)

- 1 沢田 時 BS Anchor 59:37
2 小坂 光 宇都宮ブリック 1:00:50
3 前田 公平 弱虫ハダール 1:01:20

- 4 小坂 正則 スコレーシングチーム 1:01:46
5 宮津 旭 PAXPROJECT 1:01:58
6 丸山 厚 BOMA/ROND 1:02:23

女子エリート (12.7km)

- 1 坂口 聖香 パナニックレディーズ 43:00
2 宮内佐季子 Club La.sista 44:04
3 與那嶺恵理 TEAM・eriy.jp 44:50
4 唐見実世子 弱虫ハダール 45:06
5 今井 美穂 CycleClub.jp 46:53
6 福本 千佳 Toyo Frame 47:25

**信州シクロクロス・野辺山高原ラウド 1
(UCI-Class2)
(2016/11/26 長野・野辺山)**

男子エリート (20km)

- 1 小坂 光 BLITZEN 58:30
2 沢田 時 BS Anchor 58:41
3 横山 航太 SHIMANO Racing 58:49
4 BEARD Cameron USA 59:28
5 MILLBURN Garry AUS 1:00:11
6 丸山 厚 BOMA/ROND 1:00:21

女子エリート

- 1 坂口 聖香 Panasonic Ladies 41:50

- 2 今井 美穂 CycleClub.jp 42:59
3 與那嶺恵理 TEAM・eriy.jp 43:44
4 武田 和佳 Liv 43:52
5 宮内佐季子 Club La.sista 44:52
6 唐見実世子 Yowamushi Pedal 44:55

**信州シクロクロス・野辺山高原ラウド 2
(UCI-Class2)**

(2016/11/27 長野・野辺山)

男子エリート (22.7km)

- 1 MILLBURN Garry AUS 1:03:04
2 沢田 時 BS Anchor 1:03:06
3 BRADFORD-PARISH Kevin USA 1:03:12
4 横山 航太 SHIMANO 1:03:51
5 小坂 光 BLITZEN 1:04:15
6 BEARD Cameron USA 1:04:40

女子エリート (12.7km)

- 1 坂口 聖香 Panasonic Ladies 40:34
2 武田 和佳 Liv 42:28
3 今井 美穂 CycleClub.jp 42:33
4 宮内佐季子 Club La.sista 42:45
5 唐見実世子 Yowamushi Pedal 44:14
6 與那嶺恵理 TEAM・eriy.jp 45:09

第1回チャレンジ・トラック

「世界の壁に挑戦しよう」を合言葉に、2020年東京オリンピックを目指す新しい人材を発掘する大会である第1回チャレンジ・トラックが、12月17日に伊豆ペドロームで開催され、男女エリートおよび男女ジュニアクラス計31名の選手が参加した。種目は各クラスとも200m フライングTTと250m スタンディングTTで、ワットバイクでのパワー測定など各選手の体力測定も実施された。TTで所定のタイムを更新した選手は、JCFのナショナルタレントハブに推薦される。

なお、この大会には自転車競技未経験者も参加することができ、今回は体力測定だけにジュニア女子選手が1名エントリーした。(村田 隆宣)

第1回チャレンジ・トラック

(2016/12/17 静岡・伊豆ペドローム)

エリート男子 200m フライングタイムトライアル

- 1 太田 竜馬 徳島 JPCU 徳島 10.694
2 永井 清史 岐阜 JPCU 岐阜 10.754
3 新山 響平 青森 JPCU 青森 10.834

エリート男子 250m タイムトライアル

- 1 今藤 康裕 岐阜 JPCU 岐阜 18.839
2 竹内 雄作 岐阜 JPCU 岐阜 19.420
3 永井 清史 岐阜 JPCU 岐阜 19.660

エリート女子 200m フライングタイムトライアル

- 1 石井 寛子 東京 JPCU 東京 12.064
2 中嶋 里美 愛知 JPCU 愛知 12.615
3 島田 優里 奈良 JPCU 奈良 13.555

エリート女子 250m タイムトライアル

- 1 石井 寛子 東京 JPCU 東京 20.876
2 中嶋 里美 愛知 JPCU 愛知 21.963

- 3 島田 優里 奈良 JPCU 奈良 22.256

ジュニア男子 200m フライングタイムトライアル

- 1 吉元 大生 静岡 静岡北高校 10.983
2 中野 慎詞 岩手 紫波総合高 11.013
3 松本 京太 静岡 静岡北高校 11.431

ジュニア男子 250m タイムトライアル

- 1 中野 慎詞 岩手 紫波総合高 19.038
2 吉元 大生 静岡 静岡北高校 19.050
3 安倍 大成 岩手 紫波総合高 19.230

ジュニア女子 200m フライングタイムトライアル

- 1 佐藤 水菜 神奈川 茅ヶ崎高校 12.750
2 金田 舞夏 神奈川 第一中学校 14.028
3 太郎田水桜 東京 成徳大高校 14.393

ジュニア女子 250m タイムトライアル

- 1 佐藤 水菜 神奈川 茅ヶ崎高校 21.662
2 金田 舞夏 神奈川 第一中学校 22.460
3 永禮 美瑠 愛知 西陵高校 22.585



2016-17 UCIトラックワールドカップ第1戦

上野が女子スクラッチで銀メダル!



女子スクラッチの上野

【短距離】

11月4日(金曜日)

<男子スプリント>

33名が出場し、予選は河端が10秒112(17位)で1/16Fへ進出、雨谷は10秒310(30位)で予選敗退。1/16Fで河端は予選5位のRUDYK(POL)と対戦、河端は先行するも写真判定の結果、1/16Fで敗退した。決勝では予選1位のKUCZYNSKI(POL)が、YAKUSHEVSKIY(RUS)に競り勝って金メダルを獲得した。

<女子ケイリン>

14人エントリーのため、第2ラウンドから競技開始を行った。石井はスタート位置の4番手から、ペーサー退避後に後方をけん制しながら先行するが、7位で予選敗退。KRUPECKAITE(LTU)が金メダルを獲得した。

11月5日(土曜日)

<女子スプリント>

19名が出場、予選は前田が11秒417(11位)で1/8Fへ、石井は11秒570(14位)で1/16Fへ進出。1/16Fでは石井は対戦選手がDNSのため、不戦勝で1/8Fへ進出した。前田は1/8FでTAKOS(AUS)と対戦して敗退。同じく石井はHAN(CHN)と対戦して敗退した。決勝はKRUPECKAITE(LTU)がBASOVA(UKR)を破って金メダルを獲得した。

<男子ケイリン>

23名が出場。河端は第1ラウンド2位で第2ラウンド進出を決めた。河端

は第2ラウンドを3着でゴールするが、最終回3コーナーでスプリンターレーンを外したため降格の判定で、7-12位決定戦へ。

7-12位決定戦で、河端は6番手の位置でスタート、後方よりチャンスを狙う。残り2周からWILLIAMS(NZL)が先行し、VYNOKUROV(UKR)とSAHROM(MAS)が続きペースが上がる。ゴール前でVYNOKUROVとSAHROMがWILLIAMSをかわして、VYNOKUROVが1位でゴールした。

河端は残り半周、後方6番手より追い上げるが5位でゴールし、この種目11位が確定した。

BABEK(CZE)が金メダル、Dream Seekerチームで出場した新田は4位であった。

11月6日(日曜日)

<女子チームスプリント>

10チームがエントリーの女子チームスプリントは前田、石井の走順で臨んだ。予選は35秒282(6位)で第1ラウンドへ進出。第1ラウンドは中国と対戦。中国チーム33秒569、日本チームは35秒226で中国に敗れ、この種目を6位で終えた。スペインが金メダルを獲得した。

<男子チームスプリント>

13チームが出場。日本は雨谷、河端、堀の走順で臨んだが、45秒761の12位で予選敗退した。イギリスが金メダルを獲得した。(宮本 文晴)

【中距離】

11月3日(木曜日)

<男子チームパーシュート>

新村、近谷、原田、一丸が出場。いままで単走だった予選が、今シーズンからホームバックの対戦方式に変わった。最初の1kmを1分6秒で通過、その後は1周15秒0の安定したペース走り切り4分6秒441でゴール。終始安定したペースで走ったが、8位までが進める第1ラウンドには約2秒足らず12位に終わる。翌日の決勝は、地元のイギリスが3分58秒891でフランスを制して優勝した。

<女子チームパーシュート>

梶原、中村、橋本、上野が出場。序盤を抑え気味で入り、中盤から徐々にペースを上げて行ったが、残り1kmでペースを落としてしまい4分37秒869の9位でゴール。僅か0秒2足りず初の予選通過は叶わなかった。優勝はメンバーを変更しタイムを伸ばしたイギリスが、4分25秒809で予選1位のイタリアに競り勝った。

11月5日(土曜日)

<女子個人パーシュート>

日本記録更新を目標に上野が出場。序盤を落ち着いて走ったが、中盤以降設定タイムを落としてしまい、3分45秒817の11位でゴール。予選で3分31秒のトップタイムを出したKACZKOWSKA(POL)が優勝した。

<男子スクラッチ> UCI Class 1

一丸が出場する。現スクラッチ世界チャンピオンのMORA(ESP)、元マディソン世界チャンピオンKNEISKY(FRA)を中心に、ハイペースの展開が予想される。序盤を持ち前のスピードを活かして積極的に展開するも、中盤以降の激しい展開で遅れてしまい、残り3周で-1LAPされDNFに終わった。レースは終盤に3人で抜け出し、集団を1LAPしたGHYS(BEL)が優勝した。

<男子ポイントレース>

近谷が出場。今シーズンから本格復帰した元世界チャンピオンMEYER(AUS)が、圧巻の走りで他選手を圧倒、3LAP(81点)で優勝した。ワールドカップ初出場の近谷は、平均52.549km/hのハイアベレージに苦戦、17位に終わる。次戦オランダに期待する。

11月6日(日曜日)

<男子個人パーシュート>

近谷が出場。最初の1kmを1分9秒の日本記録ペースで入ったが、その後のペースが安定せず、4分34秒814で16位に終わる。予選1位、19歳のSTANISZEWSKI(POL)を破ったロードレース界のベテランCHAVANEL(FRA)が、4分20秒567で優勝した。

<女子オムニウム>

オリンピック後ルール変更があったオムニウムに、梶原が初出場。最初の種目スクラッチは、距離が7.5kmに短縮されよりスピーディーな展開が予想された。スタートから落ち着いて走った梶原は、残り3周でスパートしたポーランドの2番手から仕掛け1位でゴール。初戦を最高の形で終えた。



女子オムニアムの梶原

梶原首位で新種目Tempo Raceをスタートする。ハイペースで進むなか11周目にKAY(GBR)、SHARAKOVA(BLR)の2名と集団を抜け出すと、力強い走りで見逃され8回通過する。残り4周、集団を1LAPし4点を追加、合計12点で連勝する。レーススピードは平均50.552 km/hと、女子では非常に速いスピードのレースだった。

3種目目のエリミネーションは、人数が少なくなった中盤、KOPECKY(BEL)やKAYに抑え込まれる場面が見られたが、持ち前の走力でカバーし生き残る。終盤KAY、KOPECKYとの争いでは、一度はかわしたKAYに再度ゴール前でかわされてしまい3位に終わる。終始危なげない走りを見せたKOPECKYが、KAYを下して1位となった。

ここまで116点を獲得した梶原は、最終ポイントレースを首位でスタートする。序盤にSHARAKOVAを含む下位の6人に逃げられてしまい、点数を詰められてしまう。3回目のポイント

の前に香港と飛び出す。首位梶原へのマークは厳しく、1点を追加しただけに終わる。点数を伸ばせない梶原は、KAYとSHARAKOVAに中盤で逆転されてしまう。逆転を懸けた最終のダブルポイントで加点出来なかった梶原は、117点4位でレースを終えた。優勝はポイントレースで逆転したKAY Emilyが121点で制した。

<女子スクラッチ>

上野が出場。序盤にROMANYUTA(RUS)が単独1LAPに成功する。その後は香港、イタリア、ポーランドが逃げを試みるが決まらず中盤に入る。ハイペースで進んで行く中DELZENNE(FRA)、SHMAYANKOVA(BLR)がアタック、順調に集団をリードして残り15周で1LAPする。2人を追い集団から追撃をかけたGURLEY(IRL)に、アタックした上野が追い付き合流、2人も残り12周で1LAPする。レースは5人の選手が1LAPしたままゴール勝負となる。残り2周、香港の動きに乗った上野がポジションを上げてスプリントするが、僅差でDELZENNEに敗れ2位となった。スパートのタイミングがもう少し早ければ優勝の可能性があっただけに、悔しい結果だった。(飯島 誠)

【競技結果】

2016-17 UCIトラックワールドカップ 第1戦
(2016/11/4-6 ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ・ｸﾞﾗｽｺﾞｰ)

男子スプリント

- 1 KUCZYNSKI Kamil POL
- 2 YAKUSHEVSKIY Pavel RUS
- 3 VYNOKUROV Andrii UKR
- 17 河端 朋之 JPCA JPCU 神奈川
- 28 和田真久留 DRS JPCU 岡山
- 30 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

男子ケリソ

- 1 BABEK Tomas CZE
- 2 LENDEL Vasilijus LTU
- 3 OLIVA Lewis WAL
- 4 新田 祐大 DRS
- 11 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山

男子スクラッチ (15km) Class1

- 1 GHYS Robbe BEL
- 2 PISKUNOV Maksim RUS
- 3 OLIVEIRA Ivo Emanuel POR
- 一丸 尚伍 大分 BS アンカー DNF

男子ポイントレース (30km)

- 1 MEYER Cameron AUS 81p
- 2 THOMAS Benjamin FRA 44p
- 3 HARRISON Samuel WAL 29p
- 17 近谷 涼 富山 三和ｼｯﾀｰ 0p

男子4km個人ﾊﾟｰｼｭｰﾄ

- 1 CHAVANEL Sylvain FRA 4:20.567
- 2 STANISZEWSKI Daniel POL 4:22.875

- 3 BEUKEBOOM Dion NED 4:20.742
- 16 近谷 涼 富山 三和ｼｯﾀｰ 4:34.814

男子ﾃﾞｲｯｼﾞ (30km)

- 1 MORA VEDRI S./TORRES BARCELO A. ESP 45p
- 2 MEYER C./SCOTSON C. AUS 44p
- 3 DE KETELE K./DE PAUW M. BEL 41p

男子ﾃﾞｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ GBR 43.479
- 2 フﾗﾝｽ FAR 44.414
- 3 ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ POL 43.962
- 12 日本 雨谷・堀・河端 45.761
- 13 Dream Seeker 浅井・新田・和田 46.304

男子4kmﾊﾟｰｼｭｰﾄ

- 1 ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ GBR 3:58.891
- 2 フﾗﾝｽ FAR 4:00.230
- 3 ｶﾀﾞｶ CAN 4:01.958
- 12 日本 近谷・原田・一丸・新村 4:06.441

女子スプリント

- 1 KRUCPECKAITE Simona LTU
- 2 BASOVA Liubov UKR
- 3 CALVO BARBERO Tania ESP
- 11 前田佳代乃 京都
- 14 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子ケリソ

- 1 KRUCPECKAITE Simona LTU
- 2 BASOVA Liubov UKR
- 3 FIELD Courtney AUS
- 13 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子スクラッチ (10km)

- 1 DELZENNE Elise FRA
- 2 上野みなみ 鹿児島 Ciel Bleu Kanoya
- 3 ROMANYUTA Evgeniya RUS



女子4km

- 1 KAY Emily GBR 121p
- 2 KOPECKY Lotte BEL 120p
- 3 SHARAKOVA Tatsiana BLR 119p
- 4 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 117p

女子3km個人ﾊﾟｰｼｭｰﾄ Class1

- 1 KACZKOWSKA Justyna POL 3:33.319
- 2 DELZENNE Elise FRA 3:39.326
- 3 SHARAKOVA Tatsiana BLR 3:39.681
- 11 上野みなみ 鹿児島 Ciel Bleu 3:45.817

女子ﾃﾞｲｯｼﾞ (30km)

- 1 LLOYD M./ARCHIBALD K. GBR 25p
- 2 BERTHON L./DEMAZ C. FRA 23p
- 3 AVERINA M./KLIMOVA D. RUS 13p

女子ﾃﾞｰﾑｽﾌﾟﾘﾝﾄ

- 1 ﾎﾟｰﾗﾝﾄﾞ ESP 33.351
- 2 中国 CHN 33.705
- 3 ﾛｼﾞｱ RUS 33.630
- 6 日本 石井・前田 35.226

女子4kmﾊﾟｰｼｭｰﾄ

- 1 ｲﾝｸﾞﾗﾝﾄﾞ GBR 4:25.809
- 2 イタリア ITA 4:27.703
- 3 フﾗﾝｽ FRA 4:26.725
- 9 日本 梶原・橋本・中村・上野 4:37.869

2016-17 UCIトラックワールドカップ第2戦

上野が女子ポイントレースで銀メダル!



【競技結果】

2016-17UCIトラックワールドカップ第2戦
(2016/11/11-13 オランダ・アペルドールン)

男子スプリント

- 1 VYNOKUROV Andrii UKR
- 2 KUCZYNSKI Kami POL
- 3 VIGIER Sebastien FRA
- 16 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 29 雨谷 一樹 JPCA JPCU 栃木

男子ケイリン

- 1 BABEK Tomas CZE
- 2 VYNOKUROV Andrii UKR
- 3 PERALTA GASCON Juan ESP
- 12 河端 朋之 JPCA JPCU 岡山
- 21 新田 祐大 DRS

男子スクラッチ (15km)

- 1 RAMANAU Raman MCC
- 2 LATHAM Christopher GBR
- 3 DE PAUW Moreno BEL

男子ポイントレース (30km)

- 1 DOWNEY Mark IRL 18p
- 2 KNEISKY Morgan FRA 14p
- 3 MIRALIYEV Sultanmurat KZA 14p
- 15 近谷 涼 富山 三和シヤッター 3p

男子ホムニアム

- 1 SAJNOK Szymon Wojciech POL
- 2 TORRES BARCELO Albert ESP
- 3 THOMAS Benjamin FRA
- 19 今村 駿介 福岡 中央大学 -2p

男子マディソン (30km)

- 1 GHYS R./DE KETELE K. BEL 40p
- 2 LAMON F./CONSONNI S. ITA 28p
- 3 STEWART M./WOOD O. GBR 19p

男子チームスプリント

- 1 イギリス GBR 43.860
- 2 フランス FRA 45.092
- 3 ドイツ GER 44.571
- 13 日本 雨谷・堀・河端 45.747

男子チームパシージュート

- 1 カタカナ CAN 4:02.144
- 2 ベルギー BEL 4:06.216
- 3 フランス FRA 4:02.732
- 14 日本 近谷・原田・一丸・新村 4:07.584

女子500mタイムトライアル

- 1 GRABOSCH Pauline Sophie GER 33.974
- 2 LEE Wai Sze HKG 34.094
- 3 CALVO BARBERO Tania ESP 34.256
- 10 前田佳代乃 JPN 京都 35.985

女子スプリント

- 1 LEE Wai Sze HKG
- 2 CALVO BARBERO Tania ESP
- 3 VAN RIESSEN Laurin NED
- 16 前田佳代乃 京都
- 19 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子ケイリン

- 1 BASOVA Liubov UKR
- 2 DEGRENEDELE Nicky BEL

- 3 LEE Wai Sze HKG
- 8 石井 貴子 JPCA JPCU 千葉

女子ポイントレース (20km)

- 1 BARKER Elinor GBR 39p
- 2 上野みなみ 鹿児島 CIEL BLEU 33p
- 3 MACHACOVA Jarmila CZE 28p



女子ホムニアム

- 1 WILD Kirsten NED 122p
- 2 KAY Emily GBR 107p
- 3 BARBIERI Rachele ITA 106p
- 12 梶原 悠未 埼玉 筑波大学 71p

女子チームスプリント

- 1 スペイン ESP 33.442
- 2 オランダ NED 34.025
- 3 中国 CHN 33.989
- 8 日本 石井・前田 35.485

【短距離】

11月11日 (金曜日)

<女子チームスプリント>

11チームがエントリー。前田、石井の走順で臨み、予選は35秒220(8位)で第1ラウンドへ進出。第1ラウンドは35秒485で予選1位のスペインに敗れ、この種目8位。スペインが1戦目に続いて金メダルを獲得した。

<男子チームスプリント>

13チームが出場。日本は雨谷、河端、堀の走順で臨んだが、45秒747の

13位で予選敗退した。金メダルはイギリスが獲得した。

11月12日 (土曜日)

<男子スプリント>

36名がエントリー。予選は河端が10秒267(22位)で1/16Fへ進出、雨谷は10秒367(29位)で予選敗退。

1/16Fで河端はTKACHEV (RUS)と対戦、勝利して1/8Fへ進出した。

1/8FはHOOGLAND (NED)と対戦。河端は先行態勢で仕掛けるが、残り1周で相手選手にかわされ敗退した。決勝はVYNOKUROV (UKR)が勝利、金メダルを獲得した。

<女子ケイリン>

17人エントリー。第1ラウンド、石井は2位で第2ラウンドへ進出。

第2ラウンドで石井は先行するMARCHANT (GBR)を好位置で追走するも、4コーナーでイン側のFIELD (AUS)がバランスを崩して石井と接触。2名は大きくアウト側に膨らみ石井は4着でゴールし7-12位決定戦へ。

7-12位決定戦残り2周、CASAS ROIGE (ESP)が先行し、イン側で粘った石井が2位でゴールし、この種目を8位で終えた。BASOVA (UKR)が金メダルを獲得した。

<女子500mタイムトライアル>

11人がエントリー、前田は35秒985で10位。金メダルはGRABOSCH (GER)が獲得した。

11月13日 (日曜日)

<女子スプリント>

23名が出場、前田は11秒566(16



女子チームスプリント

位)、石井は11秒715(19位)でそれぞれ1/16Fへ進出。1/16Fで石井はCASAS ROIGEと対戦し敗退。前田はWANG(TPE)と対戦、勝利し1/8Fへ。1/8Fで前田はJAMES(GBR)と対戦。残り1周、前田が先行するも、相手選手にかわされ敗退した。LEE Wai Szeが金メダルを獲得した。

<男子ケイリン>

24人がエントリーした男子ケイリン。河端は第1ラウンドでBABEK(CZE)と先行、主導権を争い残り1周に入るも5着で敗者復活戦へ。敗者復活戦はニュージーランドの降格により1位に繰り上がり、第2ラウンドへ進出。第2ラウンドは先行するBABEKを後方より追い上げるも、4着で7-12位決定戦へ。7-12位決定戦は6着でこの種目12位が確定した。BABEK Tomasが金メダルを獲得した。

(宮本 文晴)

[中距離]

11月11日(金曜日)

<男子チームパーシュート>

初戦に続き新村、近谷、原田、一丸で臨む。初戦の反省から序盤をもう少し速いペースで走り、後半はそのペースを維持して行く作戦でスタートした。予定通り最初の1kmを1分5秒(全体の5位)で入り、3kmまでは4分4秒台のペースで走ったが、残り1kmで失速してしまい4分7秒584の14位に終わった。予選4位のカナダが決勝までの3本を4分2秒台で揃え、第1ラウンドで予選1位のフランス、決勝で予選3位のベルギーを破り、4分02秒144で優勝した。

<女子オムニアム>

連戦で梶原が出場した。レースは、

初戦はエントリーしていなかったリオデジャネイロオリンピック6位、地元WILD(NED)を中心に展開されることが予想された。最初の種目スクラッチで梶原は、中盤から終盤にかけて自ら積極的に仕掛けて行く。特に残り10周からの逃げは大きなチャンスだったが、マークが厳しく残り6周で吸収されてしまい集団ゴールとなった。残り3周を最高のポジションで通過するが、逃げのダメージが回復出来ず17位に終わる。1位は先行したWILDをゴール前で交わしたBERTHON(FRA)。

Tempo Raceはオムニアム1戦目優勝のKAY(GBR)、WILDと中盤に逃げてメイン集団を1LAPする。逃がっている時にポイントの加点が出来ず、順位は4位に終わった。レースは力の差を見せつけたWILDが制した。

3種目目のエリミネーションは終盤KOPECKY(BEL)、STENBERG(NOR)、KAYに抑え込まれエリミネートされてしまい7位に終わる。1位は1戦目に続いてKOPECKY。

上位進出をかけて最終種目ポイントレースを8位でスタートする。序盤に下位選手含んだ逃げに乗れず順位を下げてしまう。中盤以降は積極的に逃げを狙っていくが、ことごとくWILDを中心とした上位陣に阻まれてしまい、加点することが出来ず71点の12位でレースを終えた。地元オランダのWILDが122点で優勝した。

11月12日(土曜日)

<男子ポイントレース>

近谷が1戦目に続き出場。序盤から出入りの激しい展開の中、カザフスタン14点、ウクライナ13点、ベルギー11点の接戦で最終ダブルポイントへ。

DOWNEY(IRL)がロングスプリントでダブルポイントの10点を獲得して、上位陣を逆転し18点で優勝した。近谷はトータル3点で15位に終わる。

11月13日(日曜日)

<男子オムニアム>

今村がワールドカップ初出場。最初の種目スクラッチは落ち着いて周回をこなし、残り12周で逃げを試みると、ZAKHAROV(KAZ)、SAJNOK(POL)が合流。実力者の2人が合流したことで集団が猛追。一旦は吸収されたが、カウンターアタックした香港の動きに反応したZAKHAROVが再度逃げる。ゴールまで逃げ切ったZAKHAROVが1位でゴール。終盤積極的に動いた今村は、吸収後のハイペースにポジションを下げてしまい19位に終わった。

続くTempo Raceは中盤に7人、終盤に3人が1LAPする激しい展開になった。終盤ポジションを下げてしまい、前に行けず19位に終わる。1位は序盤に加点し、更に終盤1LAPしたSAJNOKが圧勝した。平均スピードは54.365 km/hと、日本では在り得ないハイスピードだった。

3種目目エリミネーション。後方スタートの今村は、ポジションを上げる事が出来ずに3回目でエリミネートされてしまった。勝負はイタリアに競り勝ったポーランドのSAJNOKが連勝、首位のままポイントレースに臨む。

最終のポイントレースは、総合上位勢が互いに牽制しながら走る展開が多く、総合下位の選手達による序盤の飛び出しは見逃してくれる可能性が高い。レースで苦戦が続いている今村は、下位のポジションを活かしてLAP



男子チームパーシュート 女子オムニアムの梶原



女子ポイントレース銀メダルの上野

を視野に入れながら、積極的に前方で展開して行く。1回目のポイントで2点を取り、その後も何度かアタックを繰り返すが、ペースが上がった時に遅れてLAPダウンしてしまい19位で終えた。スペインの追い上げを凌いだSAJNOKが127点で優勝した。

<女子ポイントレース>

上野が出場。1戦目の好調を維持し序盤から積極的に点数を取っ

て行く。3回目のポイントの後、MACHACOVA (CZE) を含む4人で逃げを決める。途中のポイント周回でも5点を取り、追撃の3名と合流して7名で1LAPする。上野はBARKER (GBR) と同点で終盤に入り、残り2回目のポイントではBARKERが2位通過。対する上野も4位通過し2点のピハインドで最終ポイントへ。1位10点を取れば逆転、2位3位だとBARKER

の順位次第で勝敗がきまる。上野は最後まで健闘したものの、最終ゴール5位で加点できなかった。自力に勝るBARKERは残り4周から強引に仕掛け4点を加算、上野に6点差の39点で優勝した。それでも上野のグラスゴースクラッチに次ぐ連続2位は、成績以上に内容が素晴らしく、1年の成長がうかがえたレースだった。(飯島 誠)

※ W杯1・2戦 photo: T. Wako



阿部 嵩之 (宇都宮ブリッツェン)

PEARL IZUMI

第47回全日本室内自転車競技選手権大会



蔵前がサイクルサッカー初優勝

第47回全日本室内自転車競技選手権大会が12月17日から18日まで、大阪府吹田市にある関西大学千里山キャンパス東体育館で開催された。

第1日目はサイクルサッカーの予選リーグが行われ、第2日目にサイクルサッカーの決勝リーグとサイクルフィギュアが行われた。

サイクルフィギュア男子は芦田史朗(ALMOSTBLACKS)が大会11連覇を達成した。サイクルフィギュア女子は今年の世界選手権代表で高校生の近藤菜月(滋賀C.F.C.ブルーレイクエンジェル)が、大会2連覇を達成した。サイクルフィギュアは若い選手も育ってきており、今後に期待を感じさせる大会であったと思う。

サイクルサッカーは今年の世界選手権でBリーグ全勝優勝したRSV OSAKA(村上・岡嶋)に注目が集まり、実力通り順調に決勝へ進んだ。

決勝の相手は結成15年目の蔵前(時倉・藤田)に決まった。どちらが勝っても全日本初優勝となる決勝は、開始早々から蔵前が積極的に攻め前半を4対0とリード。後半も1点を加えた蔵前が、5対0で世界選手権代表のRSV OSAKAを破り初優勝を飾った。どの試合も全日本選手権にふさわしい熱い戦いが繰り広げられ、サイクルサッカーの全体的な競技力レベル向上が感じられた大会であったと思う。

(JCF 広報委員長・坂井田米治)

【競技結果】

第47回全日本室内自転車競技選手権大会(2016/12/17-18 大阪・関西大学)

サイクルサッカー

- 1 蔵前 藤田洋介・時倉宗大
- 2 RSV OSAKA 村上裕亮・岡嶋紘次
- 3 Star Bicycle Osaka2 田中勝也・杉谷嘉紀

サイクルフィギュア男子シングル

- 1 芦田 史朗 Almostblacks 100.80
- 2 中川 凱公 滋賀CFC Blue Lake Angels 90.48

サイクルフィギュア女子シングル

- 1 近藤 菜月 滋賀CFC Blue Lake Angels 90.07
- 2 佐藤 凧沙 京都産業大学 86.31
- 3 國久結希乃 滋賀CFC Blue Lake Angels 67.57



サイクルフィギュア女子優勝の近藤 サイクルフィギュア男子優勝の芦田



全日本サイクルサッカー決勝、蔵前 対 RSV OSAKA

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.222 2016年12月・2017年1月号

発行/公益財団法人 日本自転車競技連盟

発行人/橋本 聖子

編集人/坂井田 米治

編集事務局/公益財団法人 日本自転車競技連盟 事務局

〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 5F

TEL 03-6277-2690 FAX 03-6277-2691 <http://www.jcf.or.jp/>

